

研究主題 「学び合い，考えを深め，高め合う子どもの育成」
～子ども同士の対話的コミュニケーション活動を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

ア 対話的コミュニケーション活動を取り入れる取り組み

- ・意識調査，Q-Uテスト等から児童の実態把握を行い，目ざす子ども像（目標）を明確にする。
- ・理論研究，講師を招聘しての学習会を実施する。
- ・教科，道徳，特別活動の中核とした全教育活動での場や方法，内容を工夫する。
- ・実践例のストック（実践カード）
- ・実践を公開し合う中で，授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学習習慣の確立…学習規律の徹底→学級・学校全体（聴く力を高める）
…家庭学習（家庭との連携・児童の意識を高める）

(2) 研究の方法

ア 全体会，ブロック（低学年・高学年）の2部会により研究を行う。

イ 児童の実態調査を年2回行い，成果や課題を分析したり，意識の変容を見取ったりする。

ウ 学校生活全体を通して，対話的コミュニケーション活動に取り組む。

エ ブロックで全体研授業を設定する。（指導主事招聘）

オ 一人一実践の授業公開を行う。（実践紹介）

2 研究実践

(1) 理論研究

ア 「対話的コミュニケーション活動を取り入れた学習活動」

「話すこと・聞くこと」の力を育む環境づくり」についての学習会（6月）

指導 県義務教育課 副主幹・指導主事 保坂 伸 先生

(2) 研究授業

ア 第3学年図画工作科

「アートカードで楽しもう！」～おすすめ作品で美じゅつ館をオープンしよう～

授業者 泉 薫 教諭

指導 県義務教育課 副主幹・指導主事 小田切 武 先生

イ 第6学年音楽科

「日本の伝統文化や沖縄の音楽に親しみ、自分のメロディーをつくろう」

授業者 倉田 和美 教諭

指導 県義務教育課 副主幹・指導主事 葉袋 貴 先生

(3) 対話的コミュニケーション活動の環境づくり

ア 子ども同士互いの考えを受け止め合う温かい雰囲気の学級集団づくり

イ 話すこと・聴くことの力を育む環境づくり

II 研究の成果

1 成果

- (1) 牧一小の子どもに不足している力、学力向上に必要な不可欠なコミュニケーションを図る力の育成に取り組めたことは良かった。
- (2) 授業の中にコミュニケーション活動を取り入れようと、教師自身が意識化することによって、各学年での取り組みが少しずつ具体化されてきた。
- (3) 子どもたちが、学び合い、互いのよさを認識することができてきた。回数を重ねるごとに意見が積極的に出せるようになるなど、変容が見られた。
- (4) 対話的コミュニケーション活動に取り組む前提の日常の取り組みとして、学年に応じた目ざす子ども像（話す力・聴く力）を具体的な形にまとめられたのは一つの成果であった。授業の中だけでなく、学校行事や集会、朝や帰りの会などを通して聴き手を意識して話すことや聴く姿勢が大変よくなってきた。
- (5) 教科が限定されず、学校生活全体の中で幅広い活動を仕組むことができたので、より研究を深めることができた。研究授業では、図工と音楽という技能的な教科の中で話し合いの場をどう設定していくかについて研究が深められた。

2 課題

- (1) 児童の変容の見取りの検証方法をもっと明確にしておいた方がよかった。
- (2) 話し合い活動には時間を要するため、教師のしっかりした時間の計画・調整が必要である。
- (3) 実践カードに様々な教科・領域の実践が提示されているので、今後皆で参考にしていくことで生かしていきたい。
- (4) 少人数で研究を進めていくので、効果的な研究組織、ブロックの持ち方を工夫していく必要がある。

III 成果物

- 1 対話的コミュニケーション活動実践カード
- 2 対話的コミュニケーション活動の充実に向けた「目ざす子ども像」
- 3 話すこと、聴くことの力を育む学級掲示物「めざせ！話し方名人・聴き方名人」
- 4 家庭学習をがんばろう（各学年）

（研究主任 丸山 英子）